

# News Release

空にふれるまでのあいだ

廣瀬智央×小林正人×小粥丈晴

2006年7月8日（土）～ 9月12日（火）

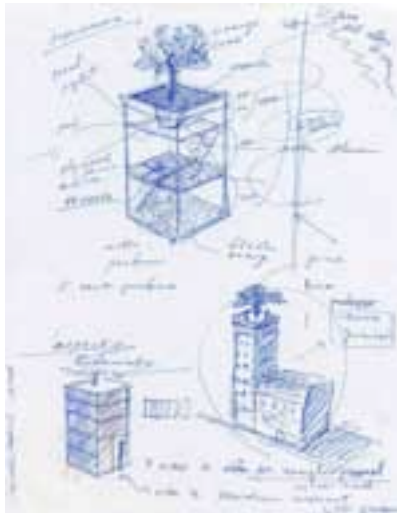


The Distance  
for Touching the Sky  
08, July - 12, September

Satoshi Hirose  
Masato Kobayashi  
Takeharu Ogai



ヴァンジ彫刻庭園美術館  
The Vangi Sculpture  
Garden Museum



後援：イタリア文化会館

協力 旭化成ケミカルズ株式会社、カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
高砂香料工業株式会社、トランローグ有限公司、  
旭化成テクノプラス株式会社、CAMPOLONGHI ITALIA s.r.l

# Introduction

## About Exhibition

ヴァンジ彫刻庭園美術館では、我々と同じ現代に生きる作家たちの多種多様な表現をご紹介しますため、定期的に企画展を開催しております。今年の夏は、現在活躍中の日本人作家、廣瀬智央、小林正人、小粥丈晴によるグループ展として、空をテーマにしたインスタレーションが行われます。当美術館は、愛鷹山の斜面の段上の土地に設計され、箱根連山の稜線とその向こうに広がる東の空という、広大なパノラマをご覧いただくことができ、この特徴をもとにし、本展では三名の作家が独自の世界を展開します。

## About Sky

この地球環境が誕生して以来、空は、常に我々のはるか上方にあり、普遍的に我々とともにありました。空のかなたに何があるのか、それは未知の空間でもあり、あるときは、そのために、神話、宗教的に様々な比喩が生まれ、古今東西の文明では、空の高みと形而上的な高みが重ねられ、神の居所とされてきました。20世紀に入り、ロケットが大気圏を突き抜け、我々をとりまく地球環境の解明は進み、空がなにものかという膨大な情報を得ることができました。にもかかわらず、我々の感覚が掌握できるのは、地球上のごく限られた範囲であり、手を伸ばせば届くのは、ほんのわずかな空気の重なりにすぎません。

確かなものはなにひとつ存在し得ない今日において、空は、私たち誰にも共通する永遠の外部であり、ひとつの指標としてあり続けます。ここで表出される空は、情報と知覚の奇妙なはざまにありながら、それでもなお、自分自身の感覚でゆらぎゆく世界を認識しようとする、過程そのもののように感じられます。本展では、それぞれの作家たちの、空にふれるまでの距離をご覧いただきます。

## About Artsits

廣瀬智央(1963-)は、感覚と象徴の間を軽やかに行き来し、精巧につくりこんだ美しいインスタレーションを展開します。新作《オレンジの樹の家》で移ろいゆく空の色とオレンジの実をかさねあわせ、《Star-dom》でビーンズ・コスモスに続く、工芸的な小宇宙をつくりあげます。小林正人(1957-)は、手で絵の具を刷り込みながら絵画と一体化し、空間に伸展していく、プロセスとしての絵画を追及してきました。本展には、高さのある展示空間を生かし、それ自身が恒星となり、発光体となるようなヌード作品を展示いたします。

小粥丈晴(1969-)は、作品を制作しながら、空間や時間を超えた内的な旅を行ない、現実と虚構の世界を移動します。本展では、ブロンズの島を制作し、近くて遠い不思議な空間に我々を誘います。

ヴァンジ彫刻庭園美術館では、この夏、普遍的でありながらきわめて個人的な、空にまつわる、様々な距離感をご覧いただけることでしょう。

あなたは空にふれることができますか？

# Words

## 精神の旅

今回の「空にふれるまでのあいだ」展では、私と鑑賞者、鑑賞者と作品、作品と場など、開かれた関係性のなかで見えてくるものとして作品を提示したく思います。それは、「精神の旅のための見取り図」であり、空の動く姿そのものであると考えてみたいと思います。個体の確固とした強い概念、つまり実体をもった固定されたものではなく、限りなく流動的なイメージです。自然の中に、そして、全ての文化の中に生きている人間の位置や人間と自然との相互関係を捉え直してみる。宇宙の生命形態すべてが、個別性を越えて個別の関係、プロセスとしてしか存在しえないこと。私ではない個体が生きること。そこから、再び目の前の身近な日常性に目を向けてみる。そこにはありきたりの固定された現実だけではなく、日々変化する流動的で創造的な多様で魅力的な世界に満ちています。マクロコスモスとミクロコスモスを自由に往還できること、すなわち、自由な流動体そのものが「空」なのかもしれません。青の彼方へ「精神の旅」に終わりはありません。

廣瀬智央

「空にふれるまでのあいだ」には感覚が全てである、という展示

この地球という星では、停止した時空間は存在しません。  
ひとりとして静止した人間というの居ません。  
光はおそろしい位のスピードで跳ね回っています。  
私の仕事はその光を捉え、呼び込みながら、瞬時手にした絵の具に変換する。光を絵に変換するわけです。  
私の作品を、ある程度以上広い空間、特に自然光へ出した場合、掛けてある壁面はもちろん、つまり絵の正面性は持ったまま、広角的な角度を持って四方八方の空間を一新させます。  
この一掃された空間が、感覚でのみ一瞬確かにふれることの出来る「空」なのです。

小林正人  
Gent, May 2006

「第一話」

物語がいつから始まったのか、何処まで続くのか  
気になる頃にはその中にいるので、想像もつきません。

小粥丈晴

## 廣瀬智央 Profile

1963年 東京生まれ  
1989年 多摩美術大学卒業  
1991/92年 イタリア政府給費奨学生として渡伊  
1997年 イタリア、ミラノ・ブレラ美術アカデミー修了  
1997/98年 ポーラ美術振興財団の助成を受ける  
現在イタリア、ミラノ在住

### 主な個展

2005年 「Blue Box」 小山登美夫ギャラリー、東京  
2004年 「Pas au de-là」 ウンベルト・ディ・マリーノ・アルテ・コンテンポラーネア、ナポリ  
2003年 「traveller」 ニコラフォルネッロ・ギャラリー、トリノ、イタリア  
2001年 「venezia, krungthep」 Project 304、バンコク、タイ  
2000年 「day, day, day...」 小山登美夫ギャラリー、東京  
「2001」 広島市現代美術館、広島  
「コート・ダジュール」 B-ギャラリー、東京  
1999年 「barcheggio」, ムラッツィ・デル・ポートルノ、イタリア  
「プロジェクトA.P.O.」 佐賀町エキジビットスペース/ 佐賀町 bis、東京  
「viaggio」 スパイラル/ワコール・アート・センター、東京  
1998年 「tra-mite」 イペリオン・アルテ・コンテンポラーネア、トリノ、イタリア  
「バラディーゾ」 水戸芸術館、現代美術センター、水戸  
1997年 「satoshi hirose」 カーザ・デッリ・アルテスティ、ミラノ、イタリア  
「レモンプロジェクト03」 ザ・ギンザ・アートスペース、東京  
1996年 「una volta」 リーセント・ギャラリー、札幌  
1993年 「domicirio」 スパッツィオ・ヴィア・トージ、ミラノ、イタリア

### 主なグループ展

2005年 「点と網」 埼玉県立近代美術館、埼玉  
「No Place like a Home」 アソシアツィオーネ・レモ・ガイバツツィ、パルマ、イタリア  
「サスティナブル・アート・プロジェクト」 平櫛田中邸、東京  
「Napoli, Presente」 PAN/ パラッツォ・デラルティ・ナポリ、イタリア  
「ウッシータ・ピストイア」 スパッツィオA、ピストイア、イタリア  
「未来への回路 - 日本の新世代アーティスト」 シントラ近代美術館、リスボン、ポルトガル  
2004年 「未来への回路 - 日本の新世代アーティスト」 ローマ日本文化会館、ローマ  
「Officina Asia Rete Emiglia Romana」 ボローニャ近代美術館、ボローニャ、  
チェゼーナ市立美術館、チェゼーナ、パラッツォ・デル・アレンゴ、リミニ、イタリア  
「楽しむ空間 - 一歩前へ!」 宮城県美術館、仙台  
2003年 「luoghi d'affezione: paesaggio-passaggio」 ikob internationales  
「kunstzentrum ostbelgien, エウベン、ブリュッセル、ベルギー  
「cross section」 de nederlandse cacaoafabriek、ヘルモンド、オランダ  
「sur-face: on the threshold」 ローマ日本文化会館、ローマ、イタリア  
2002年 「architettura del colore」 ウンベルト・ディ・マリーノ・アルテコンテンポラーネア、ナポリ  
「睡蓮2002：蒼の彼方へクロード・モネ x 廣瀬智央」 大山崎山荘美術館、京都  
「full contact」 シラクーサ市立現代美術館、シラクーサ、イタリア  
「real interface: Swimming across your eyes」 スペース・イマ、ソウル、韓国  
「per una mobillita fenomenologica della forma」 ピオ・モンティ・ギャラリー、ローマ  
2001年 「neo tokyo」 シドニー現代美術館、シドニー、オーストラリア  
「先立未来」 ルイジ・ペッチ現代美術センター、プラト、イタリア  
「crossing spirit」 TENT ロッテルダム・ヴィジュアル・アートセンター、ロッテルダム、オランダ  
2000年 「weihnachten 2000」 シンデルフィンゲン市立美術館、シンデルフィンゲン、ドイツ  
「percorsi dello spirito anno duemilla」 EXMA、カリアリ市立美術館、イタリア  
1999年 「frame」 ビアジョッティ・アルテ・コンテンポラーネア・ギャラリー、フィレンツェ、イタリア  
「piu vasto della misurato」 ミクロボ・エロティコ・プロジェクトルーム、ミラノ  
1998年 「percorsi dello spirito」 チッタ・デッイ・ムゼーイ、カリアリ、イタリア  
1996年 「per piacere」 プロジェクトルーム・イルコリドイオ、ミラノ、イタリア  
1995年 「chiang mai social installation」 チェンマイ、タイ

### パブリックコレクション

資生堂  
国際交流基金  
Microsoft Art Collection

## 小林正人 Profile

1957年 東京生まれ  
1984年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
1994年 VOCA奨励賞受賞  
1997年 ベルギー、ゲントにて制作活動  
現在日本在住

### 個展

2006年 「ヌード」 シュウゴアーツ、東京  
2005年 「Starry Paint」 フートベカートギャラリー、ゲント、ベルギー  
2004年 「星の絵の具」 シュウゴアーツ、東京  
「Starry Paint」 テンスタ・クンストハーレ、ストックホルム、スウェーデン  
2002年 「Paintings in Situ」 Rice Gallery by G2、東京  
2001年 「Another " Son of Painting"」 S. Cole Gallery、ゲント、ベルギー  
「Son of Painting」 S.M.A.K. (ゲント市立現代美術館)、ゲント、ベルギー  
2000年 佐賀町エキジビットスペース、東京  
「小林正人展」 宮城県美術館、仙台  
1998年 「夜に」 佐谷画廊、東京  
1997年 「新作展」 佐谷画廊、東京  
1995年 「新作ペインティング&ドローイング」 佐谷画廊、東京  
1993年 佐谷画廊、東京  
1992年 「絵画の子」 佐谷画廊、東京  
1991年 「空戦」 佐谷画廊、東京  
1989年 「Masato Kobayashi 1987-88」 佐谷画廊、東京  
1986年 「第2回新世代展」 佐谷画廊、東京  
1985年 「絶対絵画」 鎌倉画廊、東京

### グループ展

2005年 「西から東から」 シュウゴアーツ、東京  
2003年 「ティラナ・ピエンナーレ：U-Topos」 ティラナ、アルバニア  
2002年 「エモーショナル・サイト」 佐賀町食糧ビルディング、東京  
「未完の世紀：20世紀がのこすもの」 東京国立近代美術館、東京  
2001年 「先立未来」 ルイジベッチ現代美術センター、プラトー、イタリア  
2000年 「Epifanie - Actuele Kunst en Religie」 レーベン、ベルギー  
「A CASA DI...(...の家へ)」 ミケランジェロ・ピストレット財団、ピエラ  
「Over the Edges」 S.M.A.K. (ゲント市立現代美術館)、ゲント、ベルギー  
1999年 「思わぬ発見」 ワトゥー、ベルギー  
「開館記念展」 S.M.A.K. (ゲント市立現代美術館)、ゲント、ベルギー  
1996年 「赤い扉」 ゲント現代美術館、ゲント、ベルギー  
「サンパウロピエンナーレ」 ブラジル  
「ゲント現代美術館展」 オランダ協会、パリ  
1995年 「現代美術への視点：絵画、唯一なるもの」 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館  
「VOCA展 '94, '95受賞作品展」 第一生命南ギャラリー、東京  
「視ることのアレゴリー—1995：絵画・彫刻の現在」 セゾン現代美術館  
「VOCA展 '95—新しい平面の作家たち—」 上野の森美術館、東京  
1994.5年 「光と影：うつろいの詩学」 広島市現代美術館  
1994年 「VOCA展 '94—新しい平面の作家たち—」 上野の森美術館、奨励賞授賞  
1992年 「筆あとの誘惑」 京都市美術館  
「TEMPUS VICTIM 生きられた時間：MTMコレクションの80年代」 エスパス小原、東京  
1991年 「色相の詩学展 現代美術・平面からのメッセージ」 川崎市市民ミュージアム、神奈川  
1989年 「ドローイングの現在」 国立国際美術館、大阪  
「現代美術への視点 色彩とモノクローム」 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館  
1987年 「現代のアイコン」 埼玉県立近代美術館  
「第30回安井賞展」 西武美術館、東京 以降全国巡回  
1986年 「開館5周年記念 現代日本の美術3 戦後生まれの作家たち(第1期)」 宮城県美術館、仙台

### パブリックコレクション

セゾン現代美術館 高松市美術館  
東京国立近代美術館 いわき市美術館  
千葉市美術館 第一生命保険株式会社  
ゲント現代美術館 新潟県立万代島美術館

## 小粥丈晴 Profile

- 1969年 千葉県生まれ  
1997年 雄川愛とともにユニット活動を開始  
2001年 アートスカラシップ第一回現代美術賞優秀賞  
南條史生・長谷川祐子両部門にて受賞  
現在東京並びに山梨西湖在住。

### 個展

- 2004年 「泉への道」メゾンエルメス8Fフォーラム、東京 (by 小粥丈晴)  
「泉への道の上で」 TARO NASU GALLERY、東京 (by 小粥丈晴)  
2003年 TARO NASU GALLERY、東京 (also 2001, 2000)  
2002年 Art Scholarship 2001 優秀賞個展 (exhibit LIVE [laiv])、東京  
2001年 TARO NASU GALLERY、東京 (also 2000)

### グループ展

- 2006年 「my cup of tea -Private Luxury」 TARO NASU GALLERY東京  
2004年 「OFFICINA ASIA」 Galleria d'Arte Moderna、ポローニャ  
2002年 「エモーショナル・サイト」佐賀町食糧ビル、東京  
「Private Luxury」萬野美術館、大阪 「眠り／夢／覚醒」川村記念美術館、千葉  
1999年 「Fancy Dance-Contemporary Japanese Art After 1990」  
Artsonje Museum, Kyongju ; Artsonje Center, ソウル、韓国  
「今年の抱負」ギャラリーK、東京  
「NEW LIFE」現代美術制作所、東京

### パブリックコレクション

ヴァンジ彫刻庭園美術館

# Images

下記三点の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しております。  
ご希望の場合は、右の必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みくださいませ。



“Blue Box”  
Satoshi Hirose  
2005

FAX No.055-989-8790

貴媒体名

掲載号

発売日 放映日 月 日

貴社名

ご担当者名

TEL&FAX

E-MAIL

ご住所  
〒 -

資料お届け期限  
月 日までにご希望



Title : (not yet titled work in progress),  
Takeharu Ogai  
2006



“Unnamed 2004#13”,  
Masato Kobayashi  
2004

〒411-0931 静岡県駿東郡長泉町クレマチスの丘347-1

ヴァンジ彫刻庭園美術館 企画展広報担当行き

Tel.055-989-8785